

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	統合分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	総合看護技術	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次	学期及び曜時限	後期	教室名	各教室
担 当 教 員	岡田香代子	実務経験と その関連資格	総合病院の消化器外科病棟・外来、医院(有床)で看護師として勤務。		
《授業科目における学習内容》					
これまで学んだ基本的な看護技術の知識・技術をシミュレーション学習や事例を通して、対象のフィジカルアセスメントを実施し、対象に必要な看護援助を考え、主体的に学ぶ。卒業時到達目標に向け技術練習を行い、臨床看護の場で活用していくことができるように、状況に応じての援助方法を学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》					
授業参加状況、演習への取り組み、まとめ試験で総合的に評価する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、臨床看護総論、呼吸器、循環器、血液・造血、消火器、内分泌代謝、脳神経、腎・泌尿器、女性生殖器、運動器、アレルギー・膠原病・感染症、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯科・口腔、人体の機能と構造、疾病の成り立ちと回復、臨床外科総論、各論、看護技術がみえる1・2、臨床看護、機能障害からみる看護過程1・2・3 中央法規					
《授業外における学習方法》					
1.授業を理解するために、既習科目を復習しながら事前・事後の課題に取り組むこと。 2.演習では、手順や留意点、イメージトレーニングを行い、主体的に演習に臨む。既習の看護技術の講義内容をよく復習し、ワークシート、WEB教材や看護技術のサブテキストを活用して、毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進める。					
《履修に当たっての留意点》					
評価は、各まとめ試験ですが、すべて合格していないと単位認定の対象になりません。事前事後課題は、提出期限までに提出してください。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 シミュレーション学習の進め方、学習内容を理解し、主体的に学ぶ。	AV機器、各教科書、看護技術が見える1・2	指定した教科書を事前に読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	シミュレーション学習の進め方、学習内容、事例の提示			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸機能障害のある患者のシミュレータを活用して、フィジカルアセスメントができる。	シュミレータ、聴診器各教科書、看護技術が見える1・2	事前学習:提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む	
	各コマにおける授業予定	事例を展開し、シュミレータを活用したフィジカルアセスメント、グループワーク			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸機能障害のある患者の状態に応じた看護援助が考えられる。	シュミレータ、聴診器各教科書、看護技術が見える1・2	事後学習:提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護	
	各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助の実施、発表、振り返り			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 循環機能障害のある患者のシュミレータを活用して、フィジカルアセスメントができる。	シュミレータ、聴診器、各教科書、看護技術が見える1・2	事前学習:心不全の病態生理、症状・治療・看護	
	各コマにおける授業予定	事例を展開し、シュミレーターを活用したフィジカルアセスメント			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 循環機能障害のある患者のシミュレータを状態に応じた看護援助が考えられる。	シュミレータ、聴診器、各教科書、看護技術が見える1・2	事後学習:心不全の病態生理、症状・治療・看護	
	各コマにおける授業予定	対象に必要な看護援助の実施、発表、振り返り			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	脳血管疾患患者のシミュレータを活用して、フィジカルアセスメントができる。	シミュレータ、聴診器、各教科書、看護技術が見える1・2	事前学習:提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
		各コマにおける授業予定	くも膜下出血・脳出血・脳梗塞の患者のフィジカルアセスメント、画像診断		
第7回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標	脳血管疾患患者の状態に応じた看護援助が考えられる。	教科書、看護技術が見える1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	事後学習:事例の看護援助の振り返りをレポート提出する。
		各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助(片麻痺患者の車いすへの移乗と環境整備・足浴)、発表、振り返り		
第8回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標	脳血管疾患患者の状態に応じた看護援助が考えられる。	教科書、看護技術が見える1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	事後学習:事例の看護援助の振り返りをレポート提出する。
		各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助(片麻痺患者の車いすへの移乗と環境整備・足浴)、発表、振り返り		
第9回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標	排泄(腎・膀胱)機能障害の患者の事例を展開し、アセスメントができる。	教科書、看護技術が見える1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	事前学習:提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
		各コマにおける授業予定	事例のアセスメント、グループワーク		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	排泄(腎・膀胱)機能障害患者の事例を展開し、看護援助が考えられる。	教科書、看護技術が見える1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	事前学習:提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
		各コマにおける授業予定	事例のアセスメント、グループワーク		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	排泄(腎・膀胱)機能障害患者の状態に応じた看護援助を実施できる。	教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術、レポート	事後学習:事例の看護援助の振り返りをレポート提出する。
		各コマにおける授業予定	対象に応じた看護援助の実施、発表、振り返り		
第12回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標	輸液ポンプの操作、点滴静脈内注射の実施、手順、留意点をまとめることができる。	教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術、ワークシート	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	輸液ポンプ、点滴静脈内注射の実施		
第13回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標	心電図の測定、包帯法が根拠をふまえて実施できる。	教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術、レポート	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	心電図の測定、包帯法の看護技術		
第14回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標	口腔・鼻腔の一時的吸引の方法を根拠をふまえて実施できる。	吸引用シミュレータ、吸引器、教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	口腔・鼻腔・気管内吸引の看護技術		
第15回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標	安全・安楽に静脈血の採血が根拠をふまえて実施できる。	採血・静脈注射シミュレータ、教科書、看護技術が見える1・2、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	真空管採血を含む採血部位の確認と無菌操作による採血静脈血		